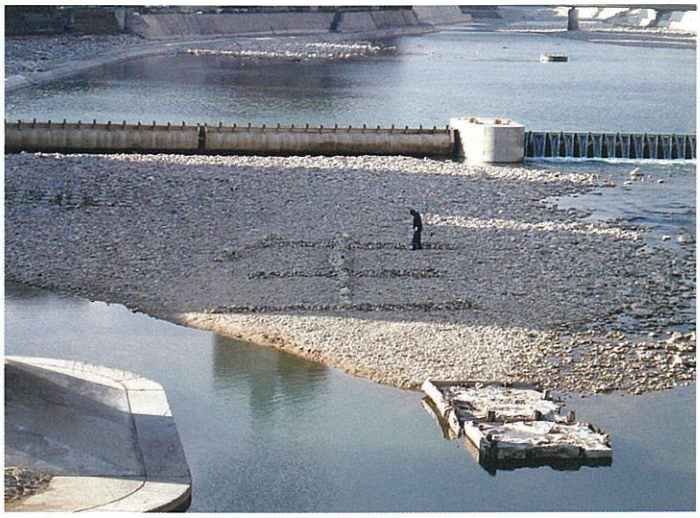
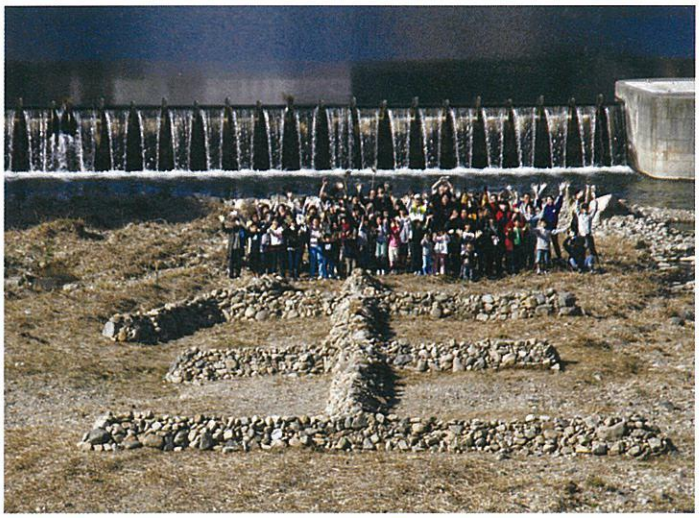
記憶の中の「生（せい）」再現プロジェクト



初代「生」制作2005年1月



2代目「生」完成2010年12月

2005年（平成17年）

1月　現代美術家大野良平氏が「街と人の心の再生」を願い、初代「生」の石積みオブジェを武庫川中洲に制作

1月16日　ライトアップを実施①（懐中電灯により）
※阪神・淡路大震災から10年目

2006年（平成18年）

1月　初代「生」の石積みオブジェを修復

1月16日　ライトアップを実施②（懐中電灯により）

秋　初代「生」自然消滅

初代「生」2005年

石を積む子どもたち

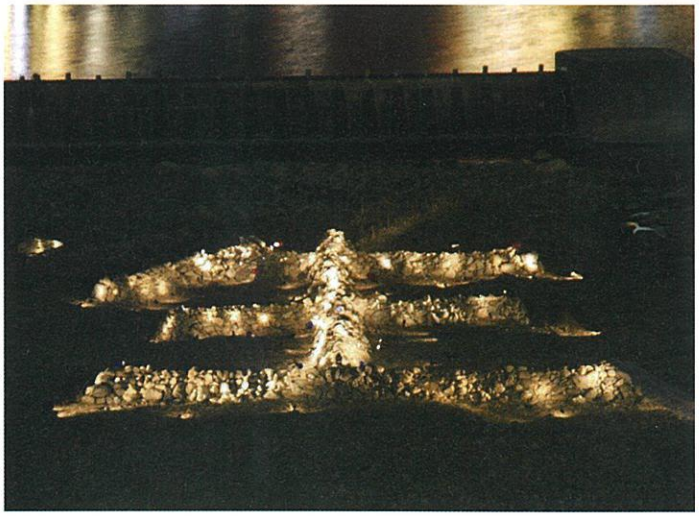
2010年（平成22年）

10月　小説「阪急電車」（有川浩／著）の映画化を契機に、記憶の中の「生」再現プロジェクトを立ち上げる。

12月5日　2代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）

12月18日　「光のさんぽみち」イベントでライトアップを実施③

初代「生」遠景2005年



2代目「生」ライトアップ

2代目「生」水没2011年5月

祈りの石イベント2012年1月

2011年（平成23年）

- 1月16日 「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施④
  ※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
- 1月 2代目「生」の石積みオブジェ再現のメイキング映像制作
- 2月10日 映画「阪急電車」のスピンオフドラマ「征志とユキの物語」の撮影協力でライトアップを実施⑤
- 4月29日 映画「阪急電車 片道15分の奇跡」公開
  エンドロールに「生」の石積みオブジェが登場
- 5月12日 大雨による増水により2代目「生」消失
- 7月23日 3代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）
- 8月14日 「宝塚武庫川灯篭流し」イベントでライトアップを実施⑥
- 9月4日 台風による増水により3代目「生」消失
- 12月10日 4代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）
  積まれた石に想いを描く「祈りの石」を実施

祈りの石

2012年（平成24年）

- 1月14日 積まれた石に想いを描く「祈りの石」を実施
- 1月16日 「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑦
  ※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
- 7月23日 4代目「生」の石積みオブジェを修復
- 8月19日 「宝塚武庫川灯篭流し」イベントでライトアップを実施⑧
- 10月25日 西宮船坂ビエンナーレ関連企画でライトアップを実施⑨
- 12月9日 4代目「生」の石積みオブジェを修復

東日本大震災からの再生を願う3代目「生」ライトアップ2011年8月

4代目「生」修復2012年12月

4代目「生」2013年8月

6代目「生」制作へむけての草刈り作業2014年8月

2013年（平成25年）

- 1月14日　積まれた石に想いを描く「祈りのかけら」を実施（「生」展において）
- 1月16日　「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑩
  ※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
  「生」のモニュメント（金属製）を河畔に設置
  ※金属製モニュメントもライトアップ実施
- 8月4日　4代目「生」の石積みオブジェを修復
- 8月17日　『宝塚「生」祈りのメッセージ・夏』イベントでライトアップを実施⑪
  ※太陽光発電による電力を使用したLED照明により
- 9月16日　台風による増水により4代目「生」消失
- 10月6日　5代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）
- 10月14日　『宝塚「生」祈りのメッセージ・秋』イベントでライトアップを実施⑫
  ※太陽光発電による電力を使用したLED照明により
- 12月21日　5代目「生」の石積みオブジェを修復

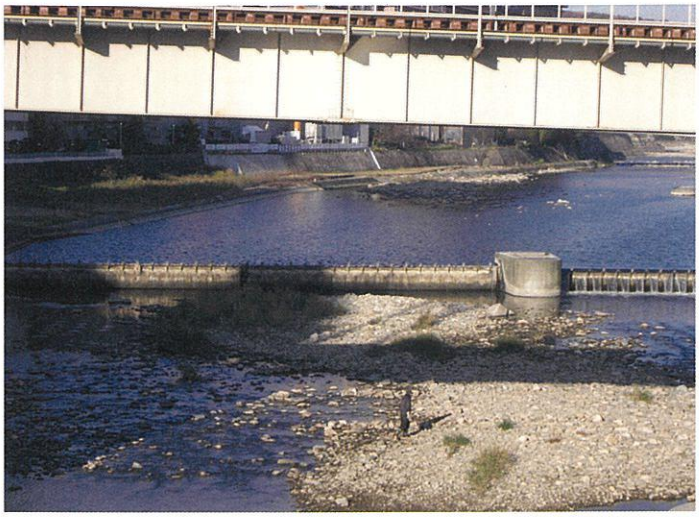
2014年（平成26年）

- 1月12日　積まれた石に想いを描く「祈りの石」を実施
- 1月16日　「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑬
  ※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
  ※金属製モニュメントもライトアップ実施
- 3月下旬　雨による増水により5代目「生」消失
- 8月2〜3日　6代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）
- 8月10日　台風による増水により6代目「生」消失

6代目「生」制作風景

5代目「生」修復2013年12月

台風の大雨による増水で6代目「生」消失2014年8月



中州を視察2015年12月

7代目「生」完成2016年1月

2015年（平成27年）

1月16日 「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑭
※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（キャンドル）により、
金属製モニュメントのみライトアップ実施
（石積みは消失のため、未実施）

12月5日～6日 7代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）

12月11日 雨による増水により7代目「生」一部消失

7代目「生」制作

2016年（平成28年）

ライトアップ作業中2016年1月

1月10日～11日 7代目「生」の石積みオブジェを修復

1月16日 「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑮
※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
※金属製モニュメントもライトアップ実施

時期不明 雨による増水により7代目「生」一部消失

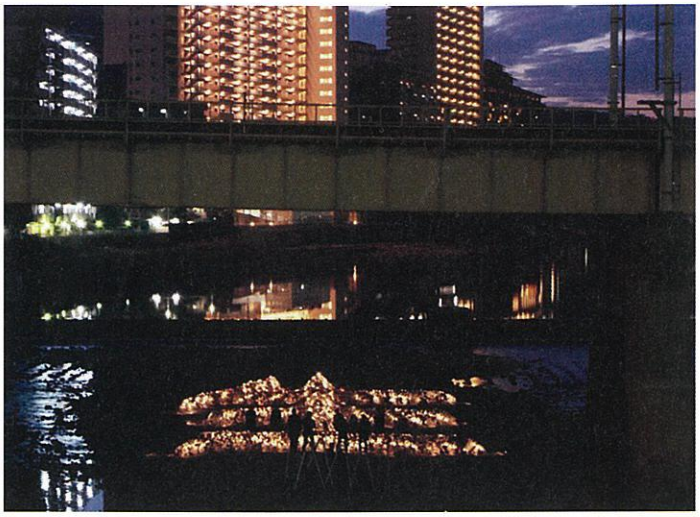
8月6日～7日 親子で積もう☆「生」の石積みを実施（夏休み企画）①
7代目「生」の石積みオブジェを修復

時期不明 雨による増水により7代目「生」一部消失

12月17日～18日 7代目「生」の石積みオブジェを修復（再現）

7代目「生」制作途中に大雨による川の増水で流失2015年12月

親子で積もう！「生」の石積み2016年8月



7代目「生」ライトアップへのマスコミ取材2017年1月

雪と8代目「生」2018年1月

2017年（平成29年）

1月16日 「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑯
※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
※金属製モニュメントもライトアップ実施

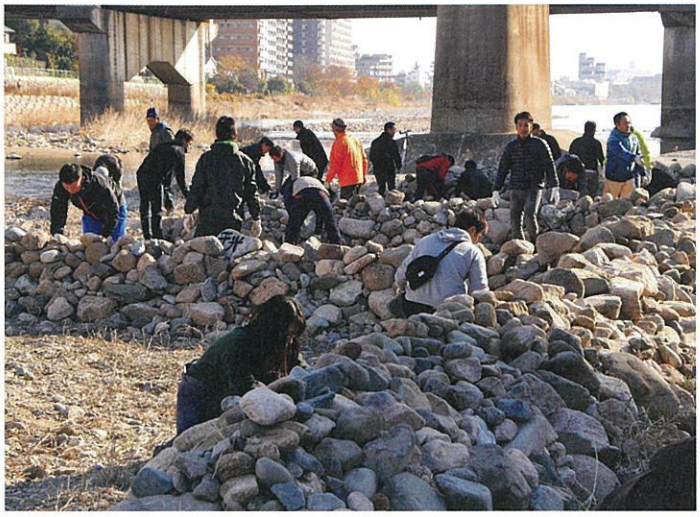
7月29日・8月5日 親子で積もう！「生」の石積みを実施（夏休み企画）②
7代目「生」の石積みオブジェを修復

8月7日 台風5号による増水により一部消失

10月22日 台風21号による増水により7代目「生」消失

12月9日～10日 8代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）

親子で積もう！「生」の石積み



8代目「生」制作2017年12月

花火と9代目「生」2018年8月

2018年（平成30年）

1月16日 「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑰
※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
※金属製モニュメントもライトアップ実施

7月7日 西日本豪雨による増水により8代目「生」消失

8月4日～5日 親子で積もう！「生」の石積みを実施（夏休み企画）③
9代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）

8月11日 「宝塚23万人の花火大会」イベント時にライトアップを実施⑱（懐中電灯により）

8月24日 台風20号による増水により9代目「生」消失

12月8日～9日 みんなで積もう！「生」の石積みを実施（延べ120名参加）
10代目「生」の石積みオブジェを制作（再現）

2019年（平成31年）

1月16日 「阪神・淡路大震災追悼」のライトアップを実施⑲
※宝塚市で亡くなられた118名の数の灯り（懐中電灯）により
※金属製モニュメントもライトアップ実施

宝塚のたからもの

宝塚で好きな光景は様々あるが、特にこれと取り上げたいのは『阪急電車』でも書いた武庫川中州に石で積まれた『生』の字だ。

宝塚在住の芸術家、大野良平さんのアート作品だが、初めてこれが誕生したときのことが忘れられない。私が知ったのは夫の仕入れてきた口コミだった。「宝塚南口と宝塚の間、武庫川を渡る阪急電車から見下ろせる中州に、石で『生』の字が積まれている」

当時は誰が作ったのかも、「せい」と読むのか「なま」と読むのかさえも謎だった。やがて、新聞などに取り上げられて、それが阪神淡路大震災の鎮魂と再生を祈念して制作された作品だったと分かった。しかし、それが判明するまでの間、中州の『生』は宝塚の日常の中にふと現れた上質なミステリーだった。市民は「一体あれは何だろう?」と想像を楽しみ、明かされた謎に感じ入った。

『阪急電車』の映画化もきっかけの一つとなり、『生』の字は全国的にも有名になった。しかし、だからといって『生』の字は何も変わらなかった。石を積んでいるだけなので、大水が出たら崩れたり流されたり、そんな素朴で自然な風景のままだった。唯一変わったのは、字の「再生」のときにボランティアが多く集まるようになって、大野さんが一人で積んでいた第一作より力強く太い字になったことだ。

一度、宝塚市から問い合わせがあった。せっかく映画などでも有名になったので、コンクリートで固めて観光のモニュメントとして残すのはどうかと思うが、先生のご意見は? というものだった。

私はこういうときは直感で断を下すが、「それはだめでしょう」と答えた。「大野さんの作品ですから最終的な判断は大野さんが下すものですが、あれは自然の中に溶け込んでいる佇まいにこそ価値があるものだと思います。コンクリなんか野暮でしょう」

大野さんもやはりOKは出さなかったらしい。そこですんなり引き下がった宝塚市の判断も非常にわきまえたもので、見事だったと思う。

このときの私の判断は直感でしかなかった。

しかし、東日本大震災の後、たまたま流失していた『生』は「再生」された。そのとき、『生』に籠められた意味がずしんと腑に落ちた。

自然の膨大なエネルギーが人の営みを叩きのめすことは数多い。人の積んだ『生』の字が大水で何度も流失してきたように。しかし、人の意志がある限り、『生』は何度でも再生する。人の営みは何度でも再生する。

それを石で字を積むという非常にシンプルな方法で象徴した『生』は、東日本大震災に対して骨太極まりない応援のメッセージであった。

誰に強いられるでもなく、押しつけられるでもなく、こつこつ石を積む。やがて『生』が表れる。いつか流される。やがてまたこつこつ。その地道な過程のすべてが、「生きていく」ことの象徴だ。人間は自然に太刀打ちできないという謙虚な諦観と、それでも自然の荒れ狂った後に営みを再生するのだという静かな不屈までも含めて。

今では武庫川に大水が出るたびに、中州の『生』を気にかけることが何気ない日常になっている。宝塚に住まう多くの人がそうだろう。ああ、無事だった。少し崩れた。ああ、流れた。

いつか流失の後、『生』の字が長く表れなくなる時代もやってくるかもしれない。しかし、それでも——百年経っても、二百年経っても、人の営みのある限り。

大きな災害の後には、あの中州にひっそりと『生』が再生して、生きていこうとメッセージを送っている。そんな宝塚であってくれたらと思う。

有川浩（小説家、ライトノベル作家）

生き続ける「生（せい）」

阪神・淡路大震災から10年目の節目となる２００５年1月。当時、宝塚南口駅前商業空き店舗を活用して現代美術展を開催していた。テーマは、街と人の心の再生。震災で解体された街へ飛び出し、アートを仕掛ける。

宝塚中心市街地を流れる武庫川。宝塚大橋を視点に、川に堆積した中州をキャンバスにみたてて、巨大な再生の「生」の字を河原の石を積んで描いた。街と自然が共生する場から再生のメッセージを発信する。１・17前夜、仲間と完成した「生」の石積みをライトアップした。暗闇から「生」を浮かび上がらせ震災犠牲者に祈りを捧げた。翌年２００６年1月、崩れた「生」を修復し、再びライトアップしたが秋の大雨で自然消滅した。

記憶の中の「生」。記憶とは、想いである。形あるものはいつか無くなるが想いは永遠に生き続ける。想いがあれば何度でも再生できる。これが「生」の石積みの精神だ。２０１０年12月、縁あり「生」を再現することとなった。多くの市民ボランティアとともに2代目「生」を積み上げた。東日本大震災が起きる3ヶ月前のことだった。

阪神・淡路大震災とともに多くの犠牲者をだした東日本大震災。日本中、いや世界中の人々の心が深く傷ついた。その直後に2代目「生」が5月の大雨で流失した。みんなで力を合わせて「生」を再現し、かつては被災地だった宝塚から東日本へむけて再生のメッセージを発信しよう！人々の心がひとつになった。その後も各地で起きる自然災害。消失と再現を繰り返す「生」。こうした想いが現在の10代目へと引き継がれてきたのだ。再生とは、生き続けるということだ。「生」の石積みをとおして震災の記憶を繋ぐとともに、震災を知らない若い世代に命の大切さを伝えたい。

10代目「生」を機に、記録誌を刊行することとなった。来年、２０２０年初代「生」を積んで15年、再現して10年を迎える。粘り強く活動できるのも多くの皆さんの支えがあってのこと。今まで「生」プロジェクトに関わって頂いた全ての人々に感謝を申し上げたい。

大野良平（現代美術家）

10代目「生」完成2018年12月

発　行　2019年3月31日

発行元　記憶の中の「生」再現プロジェクト

お問い合わせ　記憶の中の「生」再現プロジェクト

☎ 080-1437-3811

後援／宝塚市

協賛／(特)シニアパワーを活かす会・宝塚中プロバスクラブ

個人協賛／日隈孝安・涌元順子

協力／宝塚市立南口会館・明石高専Co＋work22班・「生」再現ボランティアの皆さん

スタッフ(平成30年度)／浅山和美・東賢司・梅田美佐子・大野良平・下野美作子・寺本早苗・仲清人・西林陽子・平塚茂樹・星野壮馬・山岡保寛・吉田康彦

写真提供／浅山和美・鵜飼美智子・大野良平・奥村森・吉田康彦・宝塚市

デザイン／畑佐実

＊本誌の無断掲載を固く禁じます。

HYOGO 150th Anniversary

平成30年、兵庫県は成立150周年を迎えます。
この節目にあたり、ふるさと兵庫を再認識し、新たな兵庫づくりを考える機会とするため、当該事業を実施します。